

## アポロ的なものとディオニュソス的なものとの均衡 —変幻自在な宇宙で泳ぐ混沌の世界の幻影—

“L'Equilibrio tra Apollineo e Dionisiaco”

- le ombre del mondo di caos nuotano nel cosmo in libera trasformazione -

12月4日(金) 18:00-19:30  
venerdì 4 dicembre 2009 ore 18:00-19:30

〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-1 みゆきガーデンビル B1  
Miyukigarden-bldg B1 Ginza 6-7-1.Chuo-ku,Tokyo(104-0061)

予約・招待のみ／solo prenotati ed invitati

## Program

小川えみ(ソプラノ)

Emi Ogawa (soprano)

見上 潤(ピアノ)

Jun Mikami (pianoforte)

西山タカスケ(平面作品)

Takasuke Nishiyama (monotipi)



後援:イタリア文化会館

## 「悲劇の誕生」より

“La Nascita della Tragedia  
(Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik, 1872)”

フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェの言葉

(訳) 秋山英夫 (岩波文庫)

芸術の発展というものは、アポロ的なものとディオニュソスの  
なものという二重性に結びついていると言うことだ。それはちょ  
うど生殖ということが、たえずいがみあいながら、ただ周期的  
に和解する男女両性に依存しているのに似ている。

ギリシア人のこの二柱の芸術神、アポロとディオニソスを手が  
かりとして、我々にわかることは、ギリシアの世界には、その  
起源からいっても、目的からいっても、造形家の芸術であるア  
ポロ的芸術と、音楽という非造形的芸術、すなわちディオニュ  
ソスの芸術との間に、ひとつの対立があるということだ。この  
非常に違った二つの衝動はたがいに平行して進んでゆく。たい  
がい、公然と反目し、おたがい刺激になって、あの戦いが種切  
にならないように、それぞれ一段と頑固な子供を常に新たに生  
みおとしてゆく。こうしてその対立は、「芸術」という共通の言  
葉で、辛うじて橋渡しされる程度に過ぎなくなるのだ。

アポロ的なもの		ディオニュソス的なもの
夢幻		陶醉
形象化		一体化
個体化 秩序化		狂騒
英知的	↔	情動的
理性的		感性的
造形芸術 (彫刻・絵画・詩)		音楽
節度		過剰
コスモス		カオス

姿形を描き出すあらゆる造形的な力の神であるアポロは、同時に予言の神でもある。その語源からいえば「輝くもの」、すなわち光の神であるアポロは、空想的に心の中に描き出される世界の美しい仮象も支配するのである。

(ニーチェ 「悲劇の誕生」 アポロ的夢幻とディオニュソスの陶醉 秋山英夫訳)

## モノタイプ作品解説 西山タカスケ

「第1 芸術たる音楽は、何を模倣しているというのか」というドラクロワの言葉に触発され、イタリアから帰国した2年後の1997年から今日まで、モノタイプという版画技法を使い、数千年の地中海文化伝統であり、課題である人体をモチーフに、物語性、社会性は排除し、数字、音楽、シンボルなどが持つ造形的要素と人間が持つ原始の感覚を探究した。

モノタイプは、ガラス、アクリルや金属板などの表面に版画インクや水性・油性絵の具などで直接描画し、これに用紙をあててプレスする版画である。作品は1点しか得られないので、版画の本質を複数性に求めるとすれば、この技法は版画の範疇に入れることができないが、版を介する絵画であるという事実は変わらない。この技術を用いる目的は、作家によって様々だが、紙の上に描く水彩画・不透明水彩画など加算法的技法に対し、モノタイプは減算法、つまり、インクまたは絵具を塗って、もう一度、筆や布などで掻きとったり、固い棒でグラフィートができる点で、通常の描画とは別のマチエールを得られることができる。線や色面も直接画面に描いたものとは異なり、版画や印刷独特の「写し取り」感がある。美術史的にみると、モノタイプに傾倒した後期印象派の画家ドガは、300点にも及ぶ作品を残したが、上記の特徴を充分活かし、魅力的な世界を創り上げている。

私のモノタイプは、イタリアでは作家がエッチングのエスキース等によく用いる方法で、それ自身を作品とする作家は少ない。ガラス板に版画絵具をへらで塗った後、ローラーでならし、薄い絵具のインク床を作る。その上にふわりと紙を乗せ、その紙に絵具が浸透してしまわないうちに、上から瑪瑙棒などで素早くデッサンをするという至ってシンプルなものである。プレスの過程はない。紙の選び方、インク床の厚さや状態、筆圧により、様々なマチエールが得られる。

紙は筆圧がインク床にダイレクトに届く薄手のものが好ましい。和紙等の表面が毛羽立った紙は、毛羽が役立って紙面がインクに触れる時間が遅くなるので、はっきりと線を引きたい場合に向いている。逆に、表面の毛羽が少なくインクが滲み易

い安価な紙は、コントロールが利きにくい分、思ってもみないボリュームをフォルムに与える陰影が突然出来たり、ちりめん皺のような美しいエフェクトを与えてくれる線があらわれたりする。

この技法では、ハブニングや偶然性も作品の重要な要素となる。線は、あるときは叙情的、ある時は攻撃的であり、造形を支えるエフェクトを与えてくれたり、また逆に作品を破壊してしまったりする。作品として成立するのは、何十枚、否、コンディションによっては百枚描いてほんの数枚。しかし、ほかの作品がすべて丸めてゴミ箱行きかというところではなく、不完全な中に「光」の予感を感じる時は、作品を別の素材で描き続けることで、モノタイプだけで完成された作品よりも魅力的な作品になることが多い。ドガの場合も、モノタイプの上に、パステルで着彩した作品を何点か残している。モノクロームで仕上げられたモノタイプに、ハイライトや美しい色彩の陰影が重なる。ルネッサンスの画家達を彷彿とさせるハイライトのエフェクトとドガ自身のコロリストとしての色彩感覚が融合している。

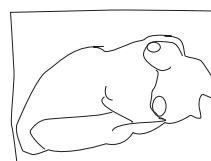
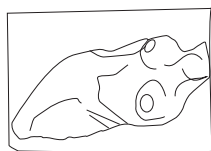
銅版に酸の力で線をむエッチングでは、酸の濃度、気温、腐食時間を計算することによって線の表現を完全に自分の支配下に置くことが出来るが、モノタイプは、版に線が刻まれないのでどんなに前もって計算したところで、少なからずハブニングは起こる。というよりも、私はハブニングを期待している。この技法は、版信頼し、自由な表現を目指す者に成果を与えてくれるものだと思う。

先に、不完全な形態から「光」を見つけることで作品はさらに発展すると述べたが、モノタイプを始めた97年当初より、コラージュ、黄金背景、ワックス、テンペラ、などを併用することによって、過剰に付加されたエフェクトを和らげたり、別のマテリアルを使って、線と面の魅力を引き出そうと試みてきた。近作の「アポロ的なクリサリデ」、「ヘロデ王の前で踊るサロメ」では、イタリアの伝統技法である黄金背景とテンペラ絵具による線描法で、97～98年当時に描いたモノタイプに新たな方向性を与えようとつとめた。今回、当時克服できなかった、

かった、モノタイプの線と伝統的なボリュームの共存という課題に取り組んだ結果を発表する。

最後に、イベント「アポロ的なものとディオニュソス的なものの均衡」に寄せて。以前、カンディンスキーの絵の前で無調音楽を演奏するという試みに出会い、いつしか自分も音楽との融合を試みたいと思い続けて来た。今年になって、幸運にも小

川えみ、見上潤と出会い、二人の熱い賛同と協力を得ることが出来た。こうして、ニーチェの「悲劇の誕生」にインスピレーションを受けた今回のこのイベントが誕生した。「アッティカ悲劇」、「ワーグナー」に続き、アポロ的なもの（絵画）とディオニュソス的なもの（音楽）が結ばれて頑固な子供を産み落としてくれることを期待する。

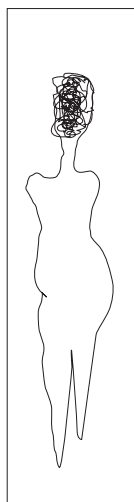


## 数字－１

１は万物の始まり、無限の可能性、太陽、唯一絶対であること、神、自己実現などを象徴する。「無」を意味する０に対して、１は有ること、存在することを示す最も原始的な記号である。

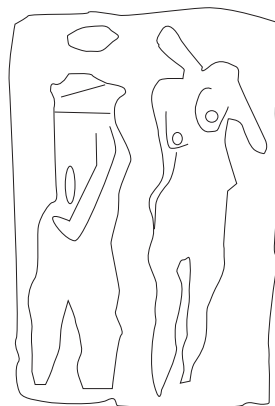
Crisalidi

Incinta

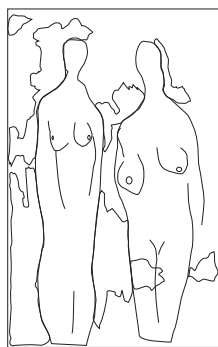


## 数字－２

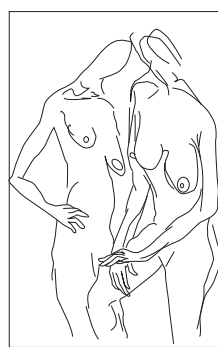
２は二元性、相対、比較、対極、対立、月などの象徴。陰陽、有無、左右、静動、長調と短調など、対立物をつかさどり、和を象徴する一方で、２つに割れる危険性も併せ持つ。一時的な調和を暗示し、分裂、流動の可能性、衰退や危険をも表す数字である。



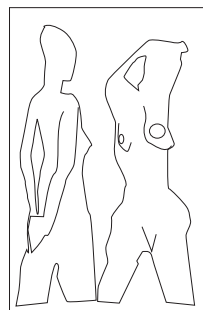
Due Dee



Pomone



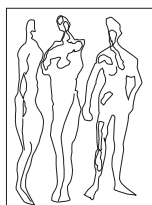
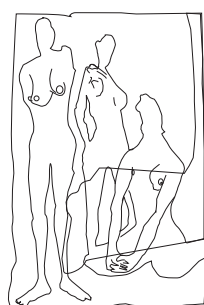
Due Dee



Due Dee

## 数字－３

３は、キリスト教の三位一体、ヒンドゥー教の三神一体など、完全を象徴する。色料の三原色、光の三原色。道教では、道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ずと言われている。レオナルド・ダ・ヴィンチが、Monna Lisa、岩窟の聖母などで用いたピラミッド型の構図は、画面に安定感をもたらしている。

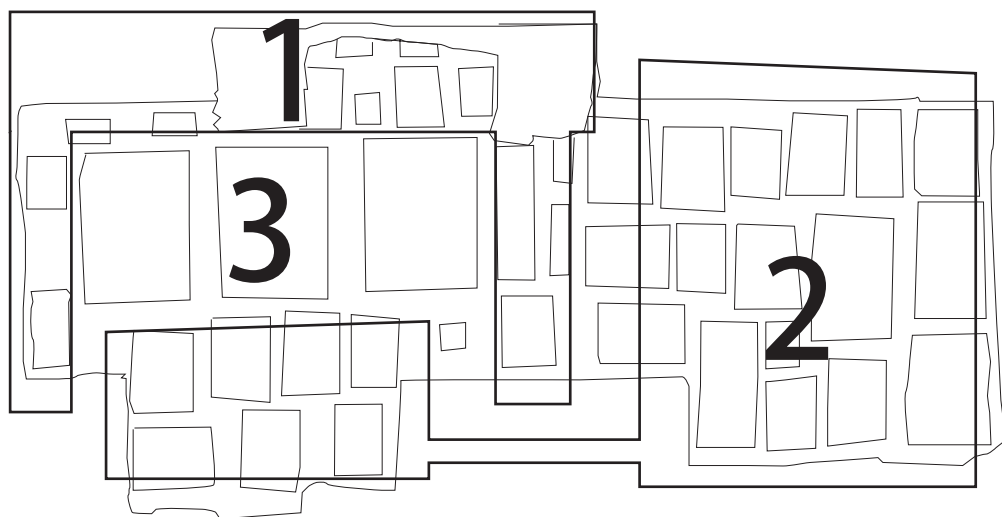


Dee (三美神)

Dee (三美神)



春の祭典

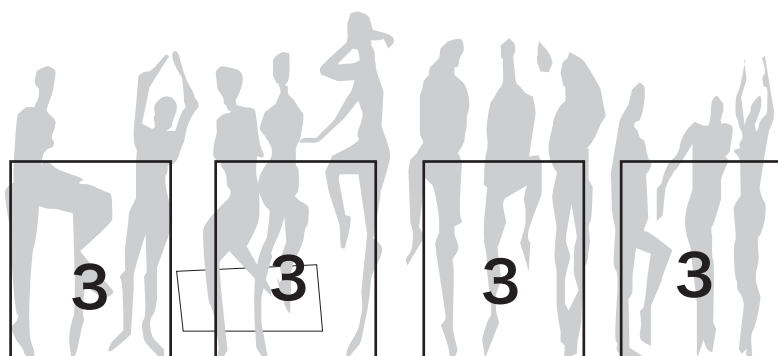


## Polittico 多翼祭壇画 1998

イタリアの教会の祭壇の中心に置かれる、多翼祭壇画よりインスピレーションを受けた。通常、多翼祭壇画は、聖母子を中心に聖書の場面が描かれた絵画数枚によって構成されている。この<Polittico>は数字３を象徴する３枚の大型作品の中心に、周りに数字１の領域と数字２の領域を配置する事によって世界を構築している。

## ストラビンスキーへのオマージュ「春の祭典」1998 “La sagra della primavera” un omaggio a Stravinski

第２章「生贄の踊り」のリズムの複雑な動きに魅了され、インスピレーションを受けた作品。バレエの実際の場面を描写しているのではなく、１２の人体は１２音階を表し、＜音楽＞を象徴している。数字３を基に３体×４グループで構成され、数字３によって万物がえられる様子を表現している。



つまり音楽というものは、ちょうど世界そのものを、それどころかもろもろのアイデアも、それが多様化して現象すると個別的な事物の世界を成すその当のものであるのと同じように、意志全体の直接的な客観化であり、その模造である。それゆえ音楽は、けっしてほかのもらもろの芸術のようにアイデアの模造ではなく、意志そのものの模造なのである

(ショーペンハウエル 「意志と表象としての世界」 第3巻52節 斎藤忍随訳)

## プログラム・ノート（曲目解説と訳詩） 見上 潤

本日の演目は、アルバン・ベルク (1885-1935) の初期の歌曲集を中心に取り上げている。ベルクは、師であるシェーンベルク (1874-1951) とやはりその弟子であるヴェーベルン (1883-1945) とともに、無調性や 12 音技法などの新たな作曲技法の開拓により「新ウィーン学派」を形成した。これらの急進的な技法は抽象的に考案されたものではなく、それまでの西洋音楽の必然的発展の到着点であると同時に、同時代の世相、文学、絵画の影響のもとに生じてきた。とりわけ歌曲は、シューベルト (1797-1828) 以来のドイツリート tradition に基づいている。その伝統とは、詩と音楽によって、不安、恐怖、孤独、病、死、セックス、恍惚、幻想、人格の 2 重化、自我の危機、宗教的疑問などの、「人間の真実」をえぐり出そうとするロマン主義に他ならない。以下、作品ごとに、その詩と音楽についての簡潔な解説を記す。

### 1. オリヴィエ・メシアン：《ヴォカリーズ・エチュード》 Olivier Messiaen: Vocalise-étude (1935)

東洋の音階とその和声による妖しい響きと、懐かしさを感じさせる 5 音音階の素材である様々なトリコルドの絶妙なコントラストが、メシアン (1908-1992) 特有の甘美で官能的な音響の豊穡の中で輝いている。母音のみで歌われる声楽部分は、ギリシア神話の女神セイレーンが歌う誘惑の旋律を聞くものに想起させる。

未完成譜が死後発見され、後にロリオ夫人らが完成させた《4 重奏と管弦楽のための協奏曲》の第 2 楽章に転用されている。

### 2. アルバン・ベルク：《声楽とピアノのための 4 つの歌曲》

#### Alban Berg: Vier Lieder für eine Singstimme mit Klavier (1908/1909, revidiert 1920)

この歌曲集は、《7 つの初期の歌曲》に続いて作曲された《ピアノソナタ》作品 1 (1908) の直後の作品である。詩が要求する新たな音楽語法の様々な実験、挑戦が随所に見られる。第 1 曲がヘッベル、第 2、3、4 曲がモンベルトの詩に作曲されている。また、第 1、2、3 曲が「眠り」というキーワードで統一されているが、第 4 曲は独立した内容を持っている。

フリードリッヒ・ヘッベル：『心の痛みは当然のこと』より

Aus „Dem Schmerz sein Recht“ von Friedrich Hebbel

ドイツ語の Recht には、「正しいこと、正当なこと、道理にかなっていること、権利」などの意味がある。

「痛み」には、それ相応の存在理由がある、と読める。

## 眠ること、眠ること、眠ることより他なく！ Schlafen, schlafen, Nichts als schlafen!

Schlafen, schlafen, Nichts als schlafen!  
Kein Erwachen, keinen Traum!  
Jener Wehen, die mich trafen,  
Leisestes Erinnern kaum,  
Daß ich, wenn des Lebens Fülle  
Niederklingt in meine Ruh',  
Nur noch tiefer mich verhülle,  
Fester zu die Augen tu!

眠ること 眠ること 眠ること以外は何もせず！  
目覚めることもなく 夢すらも見ないで！  
私に降りかかった かの陣痛でさえ少しも  
ほとんど思い出すことなく  
人生の充実が 私の眠りにまで  
響いてくるようなことがあっても  
ただなおいっそう深く私はふとんに潜り込み  
更にしっかりと目を閉じるのだ！

これは「産後の眠り」の歌ではないか？「産後は、夜中の授乳などでまとまった眠りがとりづらくなる上に、授乳をしていると、乳汁を促すプロラクチンというホルモンがたくさん分泌され、このホルモンとそれを指令する放出ホルモンに睡眠を促す作用があり、赤ちゃんにおっぱいをあげながら、ママもうとうと……、というのは生物の自然な姿である。」（「産後の眠りはおっぱいととともに」）

もちろん「陣痛」とは、人間が新たなことを産み出す際の苦しみと解釈することも可能だ。詩人として、芸術家として作品を産み出した後、何も考えずに泥のように眠りこけるのである。8分の6拍子の中で揺れているリズムは「子守唄」なのである。朦朧とする意識、もしくは、意識と無意識の間を揺れ動いている状態を、ぼかされた調性が表していると考えられる

アルフレート・モンベルト：『燃えている人』より  
Aus „Der Glühende“ von Alfred Mombert

ドイツ語の glühen は、赤熱している木炭のように炎を上げないで燃えている状態を表す動詞である。  
したがって、『赤熱している人』、『灼熱の人』という訳も考えられる。

## 眠りながら私は故郷に運ばれる Schlafend trägt man mich in mein Heimatland

Schlafend trägt man mich  
in mein Heimatland.  
Ferne komm' ich her,  
über Gipfel, über Schlünde,  
über ein dunkles Meer  
in mein Heimatland.

眠りながら 私は運ばれている  
私のふるさとへ  
遠くからそこにやって来るのだ  
山の頂の上を 深い谷をの上を  
暗い海の上を越えて  
私のふるさとへと

翻訳するにあたって上手く取り込めなかったのだが、山や谷や海に接した状態で移動しているのではなく、いわば空中浮遊している状態で移動しているニュアンスで書かれている。しかも、誰に運ばれているかもわからない状態なのである。ベルクはこの曲で特殊な音素材を巧みに凝らしながら、この空中浮遊状態とともに、巡り巡ってふるさとへ回帰するさまを表現している。その音素材とは、現在便宜的に「フランス6

の和音」と呼んでいるものであって、移調形が6種と限られているために、調性から離れた性格を持っている。音楽における確固とした秩序として機能する調性からの離脱がもたらす浮遊性は、まさに詩によってインスパイアされたことで到達した表現方法であると考えられる。バッハ的な緻密なモチーフ操作も見落とせない。

## 今や最強の巨人に私は打ち勝ち Nun ich der Riesen Stärksten überwand

Nun ich der Riesen Stärksten überwand,  
Mich aus dem dunkelsten Land heimfand  
an einer weißen Märchenhand, -

今 最強の巨人たちに私は打ち勝ち  
白いおとぎ話の手に導かれ  
最も暗い国からふるさとに帰った



Hallen schwer die Glocken;  
Und ich wanke durch die Gassen  
schlafbefangen.

吊いの鐘が重苦しく響く  
私は睡魔に襲われながら  
街中をよろめき歩いている

「最強の巨人たち」とはいったい何なのであるのか？ 無意識の中に密かに棲んでいて、自らを傷つけ苛んでしまうほど厳しいもうひとりの自分。いや、複数形だから、自分の中に自分を責め立てる自分が何人もいるということではないか。そこに優しい導き手が現れ、奈落の底にいた自分を救い出してくれたのだ。そうして自分を取り戻したかに思えたが、それでもなお闘いの余韻が頭の中でガンガン響き渡っている。闘いに疲れきった「私」は、どうにか人々の

中に再び入っていくことができたが、まだ足取りはふらつき、元の生活に戻れないでいる。闘い、燃え尽きてしまい、「うつ病」に罹患し、ようやくそこから立ち直りつつある人を歌った詩ではないだろうか。  
短調と長調の対斜的なぶつかりが巨人たちとの戦闘を、調性の回帰が導き手の登場を、ドリア旋法が吊いの鐘を表している。鐘の音は、半音上行する擬似ドブラー効果によって「私」に迫ってくる。

### 風は暖かく、陽の当たる草原に草は萌え Warm die Lüfte, es spriesst Gras auf sonnigen Wiesen

Warm die Lüfte,  
es sprießt Gras auf sonnigen Wiesen,  
Horch!  
Horch es flötet die Nachtigall.  
Ich will singen:

暖かい・・・この風は  
草が萌える・・・太陽がいっぱいの草原で  
聞け！  
聞け サヨナキドリの鳴く声を  
私も歌いたい

Droben hoch im düstern Bergforst,  
es schmilzt und glitzert kalter Schnee,  
ein Mädchen im grauen Kleide  
lehnt am feuchtem Eichstamm,  
krank sind ihre zarten Wangen,  
die grauen Augen fiebern  
durch Düsterriesenstämme.  
»Er kommt noch nicht. Er läßt mich warten...«

高いところにある暗い山林では  
冷たい雪が融けてきらめいている  
灰色の服を身にまとった ひとりの少女が  
湿った椗の幹に寄りかかり  
彼女の優しい頬は痛み  
灰色の目は熱を発している  
暗く巨大な幹と幹の間で  
「彼はまだ来ない 私を待たせたまま」

Stirb!  
Der Eine stirbt, daneben der Andere lebt:  
Das macht die Welt so tiefschön.

死ね！  
一方が死ねば 他方は生きる  
このことが世界をととても深く美しくしているのだ

詩の前半は、春の訪れを告げる典型的な表現から始まる。しかし、「ひとりの少女」が登場するやいなや、妖しく倒錯した危険な世界に読み手を引きずり込む。激しく官能的な解釈も可能であるが、それをここで語ることは、あまりに品がないので読者の想像力に委ねる。

ベルクによるこのような詩の選択は、後の《ヴォツェック》や《ルル》などのオペラにみられる、いわゆる「表現主義」的な作品の創作へと直接つながっている。この作品はまさに彼にとって

のターニング・ポイントであろう。まだ調性と考えられる骨格は残されているが、従来の分析法を厳しく拒んでいる。

前半は、ベートーヴェン《田園交響曲》と同様の同時保続低音によって牧歌的な情景を想起させられるが、少女の登場からそれは解体され始め、ピアノの激しいグリサンドを契機にして感情の爆発へと至る。「彼はまだ来ない 私を待たせたまま」と。最後は、同時保続低音とクリスタル和音の融合による倒錯した美の余韻へと誘われる

### 3. アルバン・ベルク：《7つの初期の歌曲》

#### Alban Berg: Sieben frühe Lieder (1905-1908) (Sette canzoni in età giovanile)

ベルクがシェーンベルクの弟子だった 20 ～ 23 歳の頃に書かれた歌曲を 1928 年に改訂し出版した歌曲集。この時、同時に管弦楽版も作られている。これらの歌曲に深く分け入っていくと、大学生もしくは大学院生くらいの年頃に、詩の奥行きを理解するだけでは

なく成熟しかつ最新の技法を駆使して作品化していることに驚かされる。

## 夜（第1曲） カール・ハウプトマン Nacht (Notte) Carl Hauptmann (No.1)

Dämmern Wolken über Nacht und Tal,  
Nebel schweben, Wasser rauschen sacht.

Nun entschleiert sich's mit einemal:  
O gib Acht! Gib Acht!  
Weites Wunderland ist aufgetan.  
Silbern ragen Berge traumhaft groß,  
Stille Pfade silberlicht talen  
Aus verborgnem Schoß;  
Und die hehre Welt so traumhaft rein.  
Stummer Buchenbaum am Wege steht  
Schattenschwarz, ein Hauch vom fernen Hain  
Einsam leise weht.  
Und aus tiefen Grundes Dürsterheit  
Blinken Lichter auf in stummer Nacht.  
Trinke Seele! Trinke Einsamkeit!  
O gib Acht! Gib Acht!

夜と谷の上で雲が暮れかかると  
霧がただよい 小川は静かにせせらぐ

今 突然 ヴェールが上げられる  
おお 見なさい！ 見なさい！  
広大な不思議の国が開かれたのだ  
銀色に山々は聳えたつ 夢見るように大きく  
静かな小道は谷に沿って 銀色の光を放ちながら  
隠されたふところからつづいている  
そして この気高い世界は夢見るようにとても清らかだ  
物言わぬブナの木は 道に陰のように黒々と立っている  
遠くの林からひとつの息吹が  
孤独に静かに吹いてくる  
そして深い谷底の暗闇から  
夜のしじまの中 光がキラリと輝く  
魂を飲め！ 孤独を飲め！  
おお 見なさい！ 見なさい！

昼＝意識の世界から、夜＝無意識の世界のとびらを開くと素晴らしい世界が広がっている。誰もが持っている隠れされた、ありのままの自分を直視し受け入れることで、人は解放され

るのだ。カオス（混沌）を表す2種の全音音階とコスモス（秩序）を表す調性のコントラストがこの作品の魅力になっている

## サヨナキドリ（第3曲） テオドール・シュトルム Die Nachtigall (Il rosignuolo) Theodor Storm (1817-1888)

Das macht, es hat die Nachtigall  
Die ganze Nacht gesungen;  
Da sind von ihrem süßen Schall,  
Da sind in Hall und Widerhall  
Die Rosen aufgesprungen.

Sie war doch sonst ein wildes Blut;  
Nun geht sie tief in Sinnen,  
Trägt in der Hand den Sommerhut  
Und duldet still der Sonne Glut,  
Und weiß nicht, was beginnen.

Das macht, es hat die Nachtigall  
Die ganze Nacht gesungen;  
Da sind von ihrem süßen Schall,  
Da sind in Hall und Widerhall  
Die Rosen aufgesprungen.

サヨナキドリが  
夜通し歌ったので  
その時 その甘い響きによって  
その時 その音とこだまの中で  
バラたちのつばみが瞬時に花開いた

彼女は かつてはお転婆だったが  
今では深くもの考えるようになり  
夏の帽子を手に持ったまま  
灼熱の太陽にじっと耐えている  
これから始まることを知らぬまま

サヨナキドリが  
夜通し歌ったので  
その時 その甘い響きによって  
その時 その音とこだまの中で  
バラたちのつばみが瞬時に花開いた

日本では、梅といえばホトトギスだが、ヨーロッパではおむね、バラといえばサヨナキドリ（ナイチンゲール）で

あり、セックスを含んだ愛のシンボルである。春が訪れ、バルコニーの下で男たちが愛の歌を夜通し歌い、それに女



たちも応えていくといったセレナードで歌われるような風景も目に浮かんでくる。  
無邪気で「おきゃん」だった少女は恋を知ること物思いに耽るようになる。そして激しい愛に身を任せるようになっても、これからの人生に何が起こるのかは知りようがない。結婚、出産、育児・・・さらに不実、老い、死。それらにまつわる様々なことすべて少女の想像が及ぶはずもない。

いのち短し、恋せよおとめ・・・少女の最も美しい時代を讃えた歌なのではないだろうか。  
音楽は全体として非常に甘く、この歌曲集の中で最も親しみやすい。第1節は、愛とあこがれを表すモチーフがストレッタのように折り重なり、美しい綾模様が織り出される。第2節は、少女の動悸を表すリズムが印象的だ。管弦楽版では弦楽合奏のみによる甘く柔らかな世界が広がっている。

#### 夏の日々 (第7曲) パウル・ホーエンベルク Sommertage (Giorni d'estate) Paul Hohenberg (No.7)

Nun ziehen Tage über die Welt,  
Gesandt aus blauer Ewigkeit,  
Im Sommerwind verweht die Zeit.  
Nun windet nächtens der Herr  
Sternenkränze mit seliger Hand  
Über Wander- und Wunderland.  
O Herz, was kann in diesen Tagen  
Dein hellstes Wanderlied denn sagen  
Von deiner tiefen, tiefen Lust:  
Im Wiesensang verstummt die Brust,  
Nun schweigt das Wort, wo Bild um Bild  
Zu dir zieht und dich ganz erfüllt.

今 蒼い永遠から送り届けられた日々は  
この世の上を巡って行き  
夏の風の中で 時を吹き消している  
今 夜ごとに主は  
さまよいの不思議の国の上で  
祝福された手で 星のリースを編んでいる  
おお 心よ お前のよく響く放浪の歌は  
この夏の日々の中で お前の深い深い欲求について  
いったい何か語りうるだろうか？  
草原の歌の中では この胸は黙り込んでしまう  
今や言葉は失われる この夏の光景が次々と巡り  
すっかりお前を満たしてしまうのだから

人生における「夏」の時期を歌っていると考えられる。

主要モチーフ (fis-g-c) とその移調形が次々と巡ってくる夏の日々の光景を表し、出沒するクリスタル和音は青春の甘さと悩ましさを色づけている。

#### 4. ウラディーミル・ヴァヴィロフ (ジュリオ・カッチーニ) : 《アヴェ・マリア》

##### В л а д и м и р В а в и л о в (Giulio Caccini) : Ave Maria

「カッチーニのアヴェ・マリア」としてこの曲は有名だが、「イタリア歌曲集」の《アマリッリ》(Amarilli) を作曲したジュリオ・カッチーニ (1545-1614) のルネサンス様式ではない。何と、この曲は旧ソ連の作曲家ウラディーミル・ヴァヴィロフ (1925-1973) による偽作であった。したがって、「ヴァヴィロフ《カッチーニのアヴェ・マリア》」とすべきだろう。

8小節の定和声楽節(5度の滝による反復進行)を様々な装飾し音型化しながら反復している。これはバロックの変奏曲形式のひとつである「シャコンヌ」であると考えられる。高次和声の含まれ方はむしろポップスのスタイルに近い。歌詩は、Ave Maria のみである

## 小川えみ (Emi Ogawa) ソプラノ (Soprano)

国立音楽大学声楽学科卒。故 三村祥子、鈴木環、門脇郁子の諸氏に師事。1990 年より、ルイジ・ダル・フィオール神父のもとでベルカントの真髄に触れ、師のいう“Dolce Canto “(ドルチェカント)＝“甘くやさしく歌う”と共に、“Si canta con l'anima “＝“魂で歌う”を目指して研鑽を積む。  
宗教曲は、フォーレ《レクイエム》、モーツァルト《戴冠ミサ》、ヘンデル《メサイヤ》、ベルゴレージ《スタバト マーテル》のソリストを務める。  
1997 年、「日蒙国交 25 周年記念交流演奏会」(モンゴル国立歌劇場) に出演。  
2003 年、オペラグループ「La☆Stella」を立ち上げ、《椿姫》ヴィオレッタ、2004 年《ノルマ》ノルマ、2005 年《ラ・ボエーム》のミミを務める。その他、《ドン・ジョヴァンニ》エルヴィラ、《魔笛》夜の女王、《ホフマン物語》オランピア。2008 年、グノー《ファウスト》(日仏国交 150 年記念演奏会) ではマルグリートで出演。  
2006 年、リサイタル“Si canta con l'anima “(サレジオ教会)、及びリサイタル「ヴェルディのアリア」(荻窪音楽祭) を行う。  
近年は、本日演奏するベルクなどの近代作品の演奏にも意欲的に取り組んでいる。  
「La☆Stella」副代表。サレジオ教会ソリスト。ドルチェカント会員。

## 見上潤 (Jun Mikami) ピアノ (Pinoforte)

東京都出身。少年時代は高度経済成長下の科学万能主義の下、化学・物理学に入れ込む一方、ベートーヴェン《第 9 交響曲》のオーケストラ・スコアに遭遇し、その得体の知れない記号体系に魅入られてしまう。早朝の音楽室に忍び込みピアノを独習。サイエンスと音楽の間にいる研究者を志す。  
国立音楽大学声楽学科を経て、同大学院作曲専攻(作品創作)を修了。政治的な問題意識に基づいたアヴァンギャルドな作品を発表していたが、次第に音楽史を遡り、調性とその崩壊の原理解明へと関心を移す。  
三上かーりん氏とのドイツ・リート共同研究(1983 年)、およびルイジ・ダル・フィオール氏の「ドルチェカント発声法」(1993 年)に基づき、言語・音楽・演奏を統一的にとらえる「ことば・おと・こえの三位一体理論」の確立と、その現実化を目指す。  
1981 年、秋川コーラス指揮者就任。1994 年、「オペラ・エオリア」を結成。ピアニスト及び指揮者として多くの作品を上演する。  
1997 年、モンゴルの首都ウランバートルのオペラハウスにおける「日蒙国交 25 周年記念交流演奏会」ガラ・コンサートを指揮。同年、「上田学園」の講師就任。5ヶ国語で読む「星の王子様」、英語で読む「日本国憲法」など、多言語を駆使した学科横断的な授業を行う。  
2001 年、「音楽理論研究会」の結成に加わる。2003 年、音楽の素材を 120 種の音列に分類した「オトゲノム理論」を発表。  
現在は西洋クラシック音楽のみを対象とし、音楽理論の中でも音楽分析(アナリーゼ)に特化した講義を「音楽分析学研究会」で常時行なっている。バッハ《マタイ受難曲》、シューベルト《冬の旅》、シューマン《詩人の恋》、ショパン全作品(ポーランド語による歌曲を含む)、ベルクの歌曲、フランスのエクリチュールなどの分析プロジェクトが同時進行中である。

主要論文：「古典・ロマン時代の音楽作品における分析理論の方法と課題」

主要作品：《ソプラノと 7 人の奏者のための”昇天”》(Ascension pour soprano et sept exécutants)、歌曲集《シュレーディンガーの猫のための哀歌》(Klagelieder für Schrödingers Katze)、《2009 年春 ショパンへのオマージュ Wiosna 2009 Hommage à Chopin》など。

## 西山タカスケ (Taksuke Nishiyama) 平面作品 - モノタイプ (monotipi)

京都で生まれる。  
1987 イタリアに渡る フィレンツェ住 Accademia di Belle Arti di Firenze (イタリア国立美術院フィレンツェ校) 付属ヌードデッサン学校入学  
1988 Accademia di Belle Arti di Firenze (イタリア国立美術院フィレンツェ校) 絵画科入学  
1992 同校絵画科卒業 同年、彫刻科入学  
1994 帰国 東京八王子市にランビエンテ美術研究所を設立  
1996-2007 パラッツォ・スピネッリ芸術修復学院の認可を受け、ランビエンテ美術学院を創立(99 年修復芸術学院と改名) イタリア・トスカーナ州公認日伊共同プログラム(美術品修復)をの責任者を勤めた。現在は、同校にてイタリア古典絵画技法の指導にあたる。

### 海外展

1988 フィレンツェ国際留学センター主催展  
1989 L. キアヴァレリ監督、グルッポ・ミンム劇団のための「近代能楽集」(三島由紀夫原作)の舞台装置をデザイン・制作(ヴィッラ・デミドフ、シエナ国立劇場、トッレ・デル・ラーゴ、ブツチー劇場、パルマ国立劇場等で上演)  
1988 フランス- パリ・サロン・ドートンヌ 88 初入選出品(パリ、グランパレ)  
1989 フランス- サロン・ドートンヌ 89 出品(パリ、グランパレ)  
1989 イタリア- フィレンツェ市国際美術展に招待出品  
1990 フランス- サロン・ドートンヌ 90 出品(パリ、グランパレ)  
1994 イタリア- フィレンツェ・S-レバラータ版画工房主催、版画展  
1994 イタリア- 美術協同組合くエミラルテ>主催 ファイレンツェ旧農林省於  
1999 イタリア・チエルタルド市主催「アート・イン・ジャンノツィ宮展」に招待出品  
ほか

### 国内展

1995 新宿京王プラザホテル・ロビーギャラリー  
1996 銀座ギャラリー Beaux 帰国展  
1996 飯田橋ギャラリー 52  
1997 銀座ギャラリー Beaux  
1998 青山アートスペース・リビーナ 主催 西山隆介&モラディ 2 人展 ■EST OVEST EST Firenze a Tokyo / イタリア文化会館(イタリア政府機関)主催  
1999 西武百貨店(沼津) 新館 7 回美術画廊  
1999 飯田橋ギャラリー 52  
2001 アートギャラリー北野(京都) 西山隆介&モラディ 2 人展 ■EST OVEST EST Firenze a Kyoto / イタリア文化会館(イタリア政府機関)主催  
2008 ギャラリー・アルカンジェリ「渾身のモノタイプス」/ イタリア文化会館後援  
2009 DWP「刻まれない線」  
ほか

# イタリア古典絵画技法講座 Scuola di tecniche pittoriche italiane antiche

## 黄金背景の絵画 - ジョットの時代の絵を描くには ....

初期ルネッサンス絵画を分析する 卵黄を使ったテンペラ画の基礎 ジェッソ (硫酸カルシウムの二水和物) による下地作り 箔押し

## 盛期ルネッサンスの技法 - ラファエッロを模写する

盛期ルネッサンス絵画を分析する テンペラ・グラッサとは? テンペラ&油彩の混合技法 メスティカによる下地作り

## イタリア・バロックの技法を楽しむ - カラヴァッジョを模写する

17世紀のイタリアの技法分析 シルバーホワイトの下地作り インプリミトゥーラと17世紀の描画法

西山タカスケ〜作業場 ZERO 111-0051 東京都台東区蔵前 4-30-7 タイガービル 36 号室 携帯:090-4390-1254 giallorino@mac.com

## 音楽理論研究会 The Society for Music Theory of Japan

「音楽理論研究会」は音楽理論の研究・教育・啓蒙を図るため、2002 年、島岡譲氏を会長にいただき、有志によって専門学会設立の準備会として結成された。

本会が研究対象としている「音楽理論」とは、言語としての機能を持った「音楽語」に関する、文法＝狭義の音楽理論、講読＝音楽分析、発音＝ソルフェージュ、以上の 3 つの分野を含んでいる。

従来、音楽理論は主として作曲家によって担われてきたが、作曲の片手間にはできない専門的な奥行きを持っている。また、音楽作品そのものを研究対象とし、そこから音楽理論の体系を構築する作業はまだまだ端緒についたばかりである。こうした状況を鑑み、毎年 2 回の例会と通信の発行を通じて、様々なテーマを取り上げ、持続的な研究を行なってきた。

2007 年には東京支部を立ち上げ、本部例会とは別途、新たに年 2 回の東京例会を行なっている。

### ■ 第 6 回東京例会 2009 年 12 月 20 日 (日) 12:30-17:40

- 岡崎登代子: バッハ《平均律クラヴィア曲集第 2 巻》  
第 21 番 B-dur 前奏曲とフーガの分析
- 【ガチンコ対決】今野哲也 vs. 見上潤: 続・ガチンコ対決 " 初期ベルクの音楽語法を斬る! " —— 《4 つの歌曲》作品 2 第 4 曲と近代和声の分析法について——

### ■ 第 7 回東京例会 2010 年 3 月 28 日 (日) 10:30-16:40

- 福田由紀子: Johannes Brahms 作曲  
「6 つのピアノ小品 作品 118」の和声技法の解明
- 小田裕之: ヨセフ・スク《子守唄》作品 33  
Josef Suk, Ukolébavky Op.33
- Cathy Cox: 標題未定 (シェンカー理論に関する研究発表)

### ■ 第 16 回例会 2010 年 5 月 16 日 (日) 13:30-17:40

- 小川伊作: ビウエラ歌曲にみる悲劇性の表現  
(Alonso Mudarra: Triste estava el Rey David) 他

### ■ 第 17 回例会 2010 年 10 月 3 日 (日) 13:30-17:40

- 三上かりん vs. 島岡譲: シューベルト《美しき水車小屋の娘》の分析

※ 会場は、国立音楽大学 A1 (アイ) スタジオ

(JR 国立駅南口下車、国立音楽大学付属幼稚園地下

〒186-0004 東京都国立市中 1-8-25 Tel: 042-573-5633)、

参加費は、一般 2000 円/学生 1000 円 (学生証提示)、となっています。

※ 参加ご希望の方は以下までお問い合わせください。

音楽理論研究会事務局 (本部) TEL & FAX 097-545-4429

Email: ogawa@oita-pjc.ac.jp

音楽理論研究会東京支部 TEL 090-4932-5949 Email:

dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp

## Société japonaise d'analyse musicale

音楽分析学研究会「公開講座」受講者募集中!

音楽分析学研究会は、和声、対位法、楽式などの音楽そのもののしくみから音楽のドラマを解き明かしていくことを目的としている。声楽曲は、歌詩にも立ち入った分析・解釈を行っている。共通テキストとして、現在最も優れた教科書である『総合和声』(島岡譲著 音楽之友社 1998 年)を音楽理論の最新の発見を加味しながら使用。また、下記のクラス以外にもリクエストに応じて、個人レッスン・クラス講義も随時開講中。

### ■◇ ショパン・クラス 【月 2 回火曜日 10:00-13:00】

ショパンの不可思議なソノリティーに魅了されながら、生誕 200 年 (2010 年) に向けて全作品の分析を目指している。現在は、『ピアノソナタ第 3 番』と格闘中!

### ■◇ バッハ・クラス 【月 1 回月曜日 10:00-13:00】

長大な《マタイ受難曲》を、じっくりとドイツ語歌詩と音楽が織り成すドラマを味わい、歌い、そして分析する。宗教的なバッハの音楽に潜む官能性が明らかになりつつある!

### ■◇ エクリチュール・クラス 【月 1 回 10:30-13:30】

猫の目のように変幻自在なフランス近代和声の世界をシャランの和声課題で味わい、実作品も対象。現在は、ドビュッシー《神聖な舞曲と世俗的な舞曲》、ラヴェル《序奏とアレグロ》を分析。

### ■◇ 総合クラス 【毎週金曜日 10:00-13:00】

ルネッサンスから現代までの様々な様式の作品を分析。音楽理論研究会の発表テーマの予習を中心に、ゆったりと音楽分析の世界を楽しんでいる。スク《子守唄》、《春》、ブラームス《6 つのピアノ小品 作品 118》。

### ■◇ 音楽理論入門初級クラス 【月 2 回】

『総合和声』の読解を通じて、「音楽語」文法の基礎を習得することを目標にしている。※ 現在休止中。参加者 3 名以上になった段階で再開。

※ 参加ご希望の方は以下までお問い合わせください。

音楽分析学研究会 (見上潤) Tel. 090-4932-5949

ホームページ: <http://www.geocities.jp/dolcecanto2003jp/>

Email: dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp